様式第２号の１－②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	浦和専門学校
設置者名	準学校法人古藤学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程	鍼灸科【午前部】	夜・通信	４０単位	１０単位	
	鍼灸科【午後部】	夜・通信	４２単位	１０単位	
	鍼灸科【夜間部】	(夜)・通信	３７単位	６単位	
	視能訓練士科	夜・通信	７４単位	１０単位	
商業実務課程	情報 IT 科【午前部】	夜・通信	１２単位	１０単位	
	情報 IT 科【午後部】	夜・通信	１２単位	１０単位	
	情報ビジネス科【午前部】	夜・通信	８単位	７単位	
	情報ビジネス科【午後部】	夜・通信	８単位	７単位	
	情報ビジネス科【夜間部】	(夜)・通信	８単位	４単位	
	ライフデザイン科【午前部】	夜・通信	８単位	７単位	
	ライフデザイン科【午後部】	夜・通信	８単位	７単位	
	ワークライフ科	(夜)・通信	４単位	４単位	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員の授業一覧」で公開中 （掲載　https://urasen.jp/about/report/）

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	浦和専門学校
設置者名	準学校法人古藤学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校ホームページにて理事名簿を公開している （掲載　https://urasen.jp/about/report/）

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	前 教員	R7.7.10～ R11 年度定時評議員会終結の時まで	教員に対する指導、監督
非常勤	前 地方公務員	R7.7.10～ R11 年度定時評議員会終結の時まで	学内コンプライアンス、教職員の福利厚生に対する監督
非常勤	看護師	R7.7.10～ R11 年度定時評議員会終結の時まで	医療課程の監督、人材登用
（備考）			

様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	浦和専門学校
設置者名	準学校法人古藤学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【作成について】 浦和校教務会にてシラバス作成の手引きを作成し、この手引書に基づいて各講義担当者は授業計画を作成する。シラバスには授業科目の概要、担当教員（実務経験のある者はその経験内容)、講義回数、実務経験ある教員はその反映を含む授業概要到達目標その他、履修にあたっての留意点を掲載し各学科内統一様式でシラバスを作成している。 【時期について】 翌年度の授業計画・シラバスは 12 月から２月までに担当教員が作成し、3 月の理事会・評議員会でも協議・承認することで正式な施行となる。決定された授業計画は学校ホームページで公表している。
授業計画書の公表方法　（掲載　https://urasen.jp/about/report/）
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価・管理・卒業認定に係る履修規則、学生生活のしおりに学内の成績評価、履修について記載し学生に対し周知を行っている。各学科が定める授業科目の試験（期末試験・実技試験）より成績評価を行っている。 また学業成績（アウトカム）はディプロマポリシーに基づき各授業科目ごとに到達目標を定め卒業までに習得すべき能力について明示している。 単位の認定にあたっては授業出席率が各科目毎に総授業数の 70%以上であり且つ成績評価が合格基準に達しているもので各学年ごとに定められた所定の単位をすべて修得したものに対してその学年の単位を認定、進級を認めている。 成績基準について、医療専門課程は 100～80 点を A、(但し GPA では 100～90 を 4、89～80 を 3 とする)、79～70 点を B（GPA では 2)、69～60 点を C（GPA では 1)、59 点以下は D（GPA では 0、不合格）としている。商業実務課程は 100～80 点を A、(但し GPA では 100～90 を 4、89～80 を 3 とする)、79～70 点を B（GPA では 2)、69～52 点を C（GPA では 1)、51 点以下は D（GPA では 0、不合格）としている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価・管理、卒業認定に係る規則及び学生生活のしおりに単位の認定及び成績の評価について記載して学生へ公平に示している。学業成績は授業科目ごとに実施する試験（定期試験・実技試験・レポートの提出）によって評価される。

成績基準について、医療専門課程は 100～80 点を A、（但し GPA では 100～90 を 4、89～80 を 3 とする）、79～70 点を B（GPA では 2）、69～60 点を C（GPA では 1）、59 点以下は D（GPA では 0、不合格）としている。商業実務課程は 100～80 点を A、（但し GPA では 100～90 を 4、89～80 を 3 とする）、79～70 点を B（GPA では 2）、69～52 点を C（GPA では 1）、51 点以下は D（GPA では 0、不合格）としている。

不合格科目があれば再試験を実施するものとし各年次に履修が定められた全科目に合格し単位を取得しなければ進級することができない。また成績の評価方法についてはホームページ上での公表、新入生オリエンテーションで周知を行っている。

成績順位を把握するための GPA の計算式は下記のとおりである。
GPA の算出基準：成績評価で A を 4 ないし 3、B を 2、C を 1、D を 0 とし算出する。
GPA＝（当該期間に評価を受けた科目の GP×当該科目の単位数）の合計/当該期間に評価を受けた科目の単位数の合計

客観的な指標の算出方法の公表方法	（掲載　https://urasen.jp/about/report/）

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業認定に関する方針は、教育理念・目標・専門課程における基礎的・応用的な知識と技術を教育目標として掲げている。また所定の教育課程に必要なすべての単位を取得し卒業の認定を受けた者には医療専門課程専門士、商業実務課程専門士の称号を授与している。

卒業に関する方針は学則（及び学則抜粋）、学園生活のしおりに記載されておりホームページ上で公表するとともに新入生オリエンテーションにおいて周知を行っている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	（掲載　https://urasen.jp/about/report/）

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	浦和専門学校
設置者名	準学校法人古藤学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	（掲載　https://urasen.jp/about/report/）
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	鍼灸科【午前部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	１４０単位	１１８単位		２２単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
84 人	41 人	0 人	10 人	10 人	20 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 学年担任・副担任制で複数の教員で学生の相談や学習指導を行うことのできる体制を取っている。成績不良者に対する補習、また事務局において奨学金や学資ローン、納期期日延納など経済的支援の相談窓口を設置している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 （100%）	4人 （26.7%）	6人 （40%）	5人 （33.3%）
（主な就職、業界等） 鍼灸院、診療所、独立開業			
（就職指導内容） キャリアガイダンス、企業説明会の実施（年２回程度）、卒後進路のアンケートを実施予定			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師・きゅう師　国家資格取得予定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	3人	7.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学費未納による除籍		
（中退防止・中退者支援のための取組） 成績や出席の不良な者に対して個別面談の実施。		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名			専門士	高度専門士
医療		医療専門課程	鍼灸科【午後部】			○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	１４０単位	１１８単位		２２単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
84人	22人	0人	10人	10人	20人
（備考）（任意記載事項）					

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 学年担任・副担任制で複数の教員で学生の相談や学習指導を行うことのできる体制を取っている。成績不良者に対する補習、また事務局において奨学金や学資ローン、納期期日延納など経済的支援の相談窓口を設置している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	5人 (71.4%)	1人 (14.3%)
（主な就職、業界等） 鍼灸院、独立開業			
（就職指導内容） キャリアガイダンス、企業説明会の実施（年２回程度）、卒後進路のアンケート			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師・きゅう師　国家資格取得予定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	8人	29.6%
（中途退学の主な理由） 成績不良、進路変更、転学、学費未納による除籍		
（中退防止・中退者支援のための取組） 成績や出席の不良な者に対して個別面談の実施。		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	鍼灸科【夜間部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	夜	１４０単位	１１８単位		２２単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
84 人	20 人	0 人	10 人	10 人	20 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 学年担任・副担任制で複数の教員で学生の相談や学習指導を行うことのできる体制を取っている。成績不良者に対する補習、また事務局において奨学金や学資ローン、納期期日延納など経済的支援の相談窓口を設置している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 鍼灸院			
（就職指導内容） キャリアガイダンス、企業説明会の実施（年２回程度）、卒後進路のアンケート			
（主な学修成果（資格・検定等） はり師・きゅう師　国家資格取得予定			

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	2人	11.8%
（中途退学の主な理由） 体調不良、学費未納による除籍		
（中退防止・中退者支援のための取組） 成績や出席の不良な者に対して個別面談の実施。		

2．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	視能訓練士科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	113単位	79単位		34単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
84人	42人	0人	4人	3人	7人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 授業の質問に対して複数教員でサポートできる体制を取っている。成績不良者に対する学習アドバイス、また事務局もおいて奨学金や学資ローン、納期期日延納など経済的支援の相談窓口を設置している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 （100%）	0 人 （0%）	11 人 （100%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） 眼科診療所、病院			
（就職指導内容） 個別面談を行い、希望の職場で働けるようにアドバイスしている			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士国家資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	5 人	12.8%
（中途退学の主な理由） 体調不良、進路変更、成績不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 面談等		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	情報 IT 科【午前部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	１００単位	４８単位	３２単位	２０単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
91 人	82 人	82 人	26 人	0 人	26 人
（備考）（任意記載事項）					

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (56.3%)	7 人 (43.8%)
（主な就職、業界等） 卸売業・小売業、建設業、飲食・サービス業			
（就職指導内容） Web を使用した就職先情報の収集と企業合同説明会・面接会への積極的参加を指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験(JLPT)N2 以上取得者多数、ＭＯＳ検定合格者多数			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
78 人	6 人	7.7%
（中途退学の主な理由） 成績不良、性行不良、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	情報 IT 科【午後部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	１００単位	４８単位	３２単位	２０単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
91 人	85 人	85 人	26 人	0 人	26 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (52.6%)	9 人 (47.4%)

（主な就職、業界等）
運輸・情報通信業、卸売業・小売業、飲食・サービス業、不動産業

（就職指導内容）
Web を使用した就職先情報の収集と企業合同説明会・面接会への積極的参加を指導

（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験(JLPT)N2 以上取得者多数、ＭＯＳ検定合格者多数
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	11 人	12.8%
（中途退学の主な理由） 出席不足、成績不良、体調不良、帰国、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	情報ビジネス科【午前部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６４単位	４０単位	8 単位	１６単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
342 人	351 人	350 人	26 人	0 人	26 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等

（概要）
担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
95人（100%）	0人（0%）	68人（71.6%）	27人（28.4%）

（主な就職、業界等）
卸売業・小売業、運輸・情報通信業、飲食・サービス業、建設業、製造業

（就職指導内容）
Webを使用した就職先情報の収集と企業合同説明会・面接会への積極的参加を指導

（主な学修成果（資格・検定等））
日本語能力試験(JLPT)N2以上取得者多数、ＭＯＳ検定合格者多数

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
280人	7人	2.5%

（中途退学の主な理由）
出席不足、性行不良、体調不良、帰国

（中退防止・中退者支援のための取組）
資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	情報ビジネス科【午後部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	64単位	40単位	8単位	16単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
298人	289人	288人	26人	0人	26人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
103 人 （100%）	1 人 （1%）	70 人 （68%）	32 人 （31.1%）
（主な就職、業界等） 卸売業・小売業、製造業、不動産業、飲食・サービス業			
（就職指導内容） Web を使用した就職先情報の収集と企業合同説明会・面接会への積極的参加を指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験(JLPT)N2 以上取得者多数、ＭＯＳ検定合格者多数			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
250 人	4 人	1.6%
（中途退学の主な理由） 出席不足、体調不良、帰国		

（中退防止・中退者支援のための取組） 資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	情報ビジネス科【夜間部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	夜	６４単位	４０単位	８単位	１６単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
200 人	0 人	0 人	26 人	0 人	26 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)

（主な就職、業界等）
（就職指導内容）
（主な学修成果（資格・検定等））
（備考） 令和６年度、志願者・入学者なしにつき、実績なし

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
０人	０人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	ライフデザイン科 【午前部】	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	８０単位	５２単位	４単位	２４単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
０人	０人	０人	０人	０人	０人

（備考）（任意記載事項）
募集停止中

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 （100%）	1人 （14.3%）	2人 （28.6%）	4人 （57.1%）
（主な就職、業界等） 不動産業、飲食業			
（就職指導内容） Webを使用した就職先情報の収集と企業合同説明会・面接会への積極的参加を指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） ＭＯＳ検定合格、日商簿記検定３級合格			
（備考）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名			専門士	高度専門士
商業実務		専門	ライフデザイン科 【午後部】			○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	80単位	52単位	4単位	24単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
44 人	19 人	17 人	26 人	0 人	26 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

（備考）
令和６年度、志願者・入学者なしにつき、実績なし

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%

（中途退学の主な理由）
（中退防止・中退者支援のための取組） 資格外活動時間厳守の啓蒙、出席率向上のための教師による日々の案内指導

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門	ワークライフ科		

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
１年	夜	４０単位	２８単位		１２単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	0 人	0 人	26 人	0 人	26 人

（備考）（任意記載事項）

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり、学習・生活両面におけるきめ細かなサポートを可能とする体制を取っている。また事務局において奨学金や納期期日延納など経済的支援の相談を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) 令和7年度、志願者・入学者なしにつき、実績なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考（任意記載事項）
鍼灸科 【午前部】	150,000 円	670,000 円	備考に記載	1 年次：施設費・施設管理費 65,000 円・実習教材費 55,000 円、2 年次：施設費・施設管理費 40,000 円・実習教材費 48,000 円、3 年次：施設費・施設管理費 50,000 円・実習教材費 62,000 円
鍼灸科 【午後部】	150,000 円	670,000 円	備考に記載	1 年次：施設費・施設管理費 65,000 円・実習教材費 55,000 円、2 年次：施設費・施設管理費 40,000 円・実習教材費 48,000 円、3 年次：施設費・施設管理費 50,000 円・実習教材費 62,000 円
鍼灸科 【夜間部】	150,000 円	670,000 円	備考に記載	1 年次：施設費・施設管理費 65,000 円・実習教材費 55,000 円、2 年次：施設費・施設管理費 40,000 円・実習教材費 48,000 円、3 年次：施設費・施設管理費 50,000 円・実習教材費 62,000 円
視能訓練士科	240,000 円	960,000 円	78,000 円	1 年次：実習教材費 105,000 円 2 年次：実習教材費 130,000 円 3 年次：実習教材費 230,000 円
情報 IT 科 【午前部】	100,000 円	480,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 40,000 円 2 年次：実習教材費 34,000 円 3 年次：実習教材費 34,000 円
情報 IT 科 【午後部】	100,000 円	480,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 40,000 円 2 年次：実習教材費 34,000 円 3 年次：実習教材費 34,000 円
情報ビジネス科 【午前部】	100,000 円	480,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 40,000 円 2 年次：実習教材費 50,000 円
情報ビジネス科 【午後部】	100,000 円	480,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 40,000 円 2 年次：実習教材費 50,000 円
情報ビジネス科 【夜間部】	100,000 円	480,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 40,000 円 2 年次：実習教材費 50,000 円
ライフデザイン科 【午前部】	100,000 円	400,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 41,500 円 2 年次：実習教材費 38,000 円
ライフデザイン科 【午後部】	100,000 円	400,000 円	50,000 円	1 年次：実習教材費 41,500 円 2 年次：実習教材費 38,000 円
ワークライフ科	50,000 円	400,000 円	50,000 円	実習教材費 41,500 円
修学支援（任意記載事項）				

b）学校評価

自己点検評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 前年度の評価について学校ホームページに公開している （掲載　https://urasen.jp/about/report/）
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校関係者として関連企業、卒業生などを含む学校関係者委員会を組織し学校が実施している自己点検・自己評価に対して意見と知験を活かし教育内容、学校運営について意見を述べ評価を行い、学校長に報告するものとする。
第三者評価の委員

所属	任期	種別
医療機器製造販売会社代表	2026.4.1～2028.3.31	業界関係者
施術所代表	2026.4.1～2028.3.31	学校卒業生、業界関係者
株式会社代表取締役	2026.4.1～2028.3.31	本校所在地域関係者
私立学校教頭	2026.4.1～2028.3.31	高等学校等関係者
県議会議員	2026.4.1～2028.3.31	地方公共団体関係者

第三者評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） （掲載　https://urasen.jp/about/report/）
（備考）
第三者評価については、未実施。来年度以降実施予定のため、上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度実施した学校関係者評価に関する情報を記載。

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） （掲載　https://urasen.jp）

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H111310700041
学校名（○○大学 等）	浦和専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	準学校法人古藤学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		－人（　　－）人	－人（　　－）人	－人（　　－）人
内訳	第Ⅰ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	－人（　　－）人	（　　0人）	
	第Ⅱ区分	0人	－	
	（うち多子世帯）	（　　0人）	（　　－人）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（　　0人）	（　　0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	－	－	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（　　0）人
合計（年間）				－人（　　－）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	0人	0人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。